

		SAPIX	日能研	四谷大塚 早稲田アカデミー	浜学園 希学園
カリキュラム 全体の特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・5年生で受験に必要とされる一通りの学習を終える(社会を除く) ・夏期を含む講習期間中も、新しい分野・単元の学習が進行する ・ハイウェイ方式では同じ単元を次に学ぶ時には難易度がアップする 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムは通常授業でのみ進み、講習は通常カリキュラムの復習期間 ・カリキュラムが一巡するのは6年の1学期と大手各塾の中で最後になる ・夏期講習は学年が上がるにつれて拘束時間が長くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習シリーズ改訂でSAPIXと同等か科目によりそれ以上の進捗でカリキュラムが進むようになった ・4・5年生は、夏に上半期の復習と下半期に学ぶ内容の先取りも行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい分野・単元の講義～問題演習、解けるかどうかの確認まで、塾ですべてをやってくれる ・塾への滞在時間は長い ・夏の間は17時以降の一般コース(平常授業)も講習日に併行して実施される
4年生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・8月前半～お盆までの10日間と、お盆明けの5日間の二部構成 ・5年生に向けた本格的な受験カリキュラムの導入と位置づけられる ・理社は夏の季節や夏休みを意識した学習ができるよう工夫されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習は6日のみで校舎により7月中と8月で開催スケジュールが異なる ・基礎・応用・発展のレベル別で教材も異なる ・講習特別テストで講習内容の定着度が確認できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習は約16日間で上半期カリキュラムの復習と下半期に学ぶ学ぶ内容の先取りを行う ・早稲田生は8月上旬に合宿が開催される(5・6年も同様) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3科目とも解説授業が中心 ・算数と国語は上半期の復習で、算数は重要な単元で秋以降の応用問題が取り組んでいけるよう復習する ・理科は単元を掘り下げて関心を深めていく
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に上半期で学んだ内容の弱点補強を済ませておきたい ・お盆や講習終了～夏休みまでの学習計画を事前に具体化しておく(お子さんに合ったカリキュラムの復習メニューを盛り込んでおけると望ましい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習期間が短く夏の使い方や家庭学習を事前に計画することが必要 ・これまでの学習が順調なら講習自体を間引く可能性も検討できる ・講習中はあと一歩の問題を家庭でフォローし講習テストでの成功体験を演出 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に上半期の総括を行い、夏期講習の目的を明らかにする ・目的に応じて8月前半(四谷)や合宿(早稲田)の使い方を決める ・期間中は2回の判定テストで結果を収めるよう講習内容の復習に力を注ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間中は講習の復習に取り組むことで、復習テストの結果につなげやすい ・この時期に特に大切な、テストで良い点をとることでの成功体験を積むことにつなげたい
5年生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・7月末～お盆までの15日間と、お盆明けの5日間の二部構成 ・クラス帯が最も固定化される5年下半期に向けた土台と位置づけられる ・算数では今後の単元で必須となる「比と割合」について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・応用・発展のレベル別で教材も異なり、講習特別テストが実施される ・他塾に比べると夏明けの難易度上昇は緩やかだが、9月から思考力や記述力を試すテストが入り、上位層は入試レベルへの対応を求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習は約16日間で上半期カリキュラムの復習と下半期に学ぶ内容の先取りを行う ・負担が急増する5年下半期へのスタート地点と位置づけられ、特に算数では「比」の学習が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・3科ともに上半期の復習で問題演習が中心、6年生で入試問題に対応できる知識や解法を身につける ・算数は4年生同様、重要な単元について、秋以降の応用問題が取り組んでいけるよう復習する
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に上半期で学んだ内容の弱点補強を済ませておきたい ・お盆や講習終了～夏休みまでの学習計画を事前に具体化しておく ・9月のオープンテスト対策や歴史の開始に備えたカリキュラムでの学習も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に豊富なテストデータに基づいて、夏期のポイントを決めておく ・講習テストで好成績を狙っていく ・上位層は算数を中心に市販教材などで既習分野・単元の応用問題にチャレンジさせたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に上半期の総括を行って夏期の目的を明らかにし、目的に応じて講習や合宿の使い方を決めていく ・算数を中心に、講習が始まる前に下半期の内容に関する先取り準備ができていると理想的 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間中の一般コースの授業内容を十分理解するには、家庭学習の時間を事前に確保しておくことが求められる ・6月、7月中に既習範囲の弱点分野を復習し、講習受講中は授業内で学習を完結できるようにしたい
6年生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・18日間の講習に加え、8月末には志望校練成特訓も開催される ・秋以降に備えて入試問題で得点できる力を養う位置づけ(国語は実際の過去問に触れる、算数は入試レベルの解法を学ぶなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習は24日間、最上位クラスはお盆の期間にも追加で特訓が実施される ・一巡したカリキュラムのうち、入試につながるやすい分野・単元を中心にした総復習と、2学期からの学校別対策に向けた演習強化の位置づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数は入試問題を織り交ぜた演習、社会は時事問題、理科では電気と水溶液の学習にも力を注ぐ(四谷) ・クラス別に算数、理科の教材が指定され、ぼう大な演習量の確保が推奨される(早稲田) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題演習がメイン ・資格制になっており、レベルごとに入試に対応するために必要な力をつけることが目的となる(例：男女最難関中コース＝最難関中レベルの問題を解くための基礎から応用問題までを扱う)
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に、お盆の使い方と志望校練成の参加有無の見通しを立てる ・7月までに基礎ができていない分野・単元は講習の位置づけを検討 ・過去問集『有名中』を用いて、過去問の扱いを学べると理想的 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習期間が長くなり、全てをまんべんなく頑張るのが難しくなる ・上半期のテスト結果や志望校の傾向から、事前にポイントを決めておく ・講習開始後7月末の特別テストを踏まえ学習サイクルの修正が入ってくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてお盆と8/20以降の使い方(四谷)や合宿の参加有無(早稲田)を決める ・課題量が多く+αの勉強はしにくい、お盆のうちの宿題量は先にチェックしておいた方が良い(早稲田) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習前に弱点分野を復習し、講習と一般コース、オープン講座をバランスよく受講できるよう準備する(苦手を抱えたまま講習を受けると、宿題に時間がかかり、一般コースで受験に重要な単元の学習が不十分になりがち)